



# 実習編



クラスルーム・イングリッシュは、児童のリスニング能力を飛躍的に向上させるというのではなく、「英語の授業の雰囲気づくり」としての意味合いが強い。また、教師が積極的に英語を使用することにより、児童が一生懸命に教師の英語を聞こうとする態度を引き出すことにもなる。指導者（日本人の教師）も英語を使うよいモデルとして、授業中の指示や質問にできるだけ英語を使うように努力したいものである。

クラスルーム・イングリッシュを用いるときには、ふだん日本語で児童に話すときと同じように、児童の理解の程度を確かめながら、ゆっくり、はっきりと言うように心がける。いくつかの指示を出さなければならないときは、一度にたくさんの指示を出したり、長文で指示をしたりすることは避け、簡潔な文で一文一文児童の理解を確認しながら指示するなどの配慮が必要である。新出の表現を用いるときは、何度か聞かせるとともに、動作を加えたり、絵を描いたりして児童の理解を助けるようにする。場合によっては日本語を効果的に活用して、教師の意図するところがすべての児童に正しく伝わるように工夫したい。また、児童の目をしっかり見て言うことを忘れてはいけない。

次に示すのは、主に授業で使用されるクラスルーム・イングリッシュである。指示を出す際には、文頭や文末に please を加えて使うようにしたい。

### 1 授業の始まり (STARTING CLASS)

1	おはようございます。	Good morning.
2	こんにちは。	Hello. / Good afternoon.
3	みなさん、こんにちは。	Hello, everyone.
4	英語の時間です。	It's time for English class.
5	元気ですか。 今日の調子はどうですか。	How are you? How are you today?
6	今日は何曜日ですか。 — 金曜日です。	What day is it today? — It's Friday.
7	今日は何月何日ですか。 — 4月25日です。	What's the date today? — It's April twenty-fifth.
8	今日の天気はどうですか。 — 晴れています。	How's the weather today? — It's sunny.
9	立ちなさい。	Stand up.
10	座りなさい。	Sit down.
11	席に戻りなさい。	Go back to your seat.
12	準備はいいですか。	Are you ready?
13	始めましょう。	Let's begin. / Shall we begin?
14	今日の目標です。	This is today's goal.
15	目標を一緒に読みましょう。	Let's read the goal together.
16	これが今日の授業内容です。	This is today's [lesson/class schedule/plan].

## 2 活動の始まり (STARTING ACTIVITIES)

1	ゲームをしましょう。	Let's play a game.
2	チャンツを練習しましょう。	Let's practice a chant.
3	歌を歌いましょう。	Let's sing a song.
4	手を叩きましょう。	Let's clap our hands.
5	この歌を知っていますか。	Do you know this song?
6	机を寄せなさい。	Put your desks together.
7	机を後ろに下げなさい。	Move your desks to the back.
8	すべて片付けなさい。	Put everything away.
9	消しゴムを2人の間に置きなさい。	Put one eraser between you and your partner.
10	[テキスト/ワークシート/筆箱/ファイル] を取り出しなさい。	Take out your [textbook/worksheet/pencil case/file].
11	テキストを片付けなさい。	Put away your textbook.
12	机をきれいにしなさい。	Clear your desks.

## 3 活動中 (ACTIVITIES)

1	ここに立ちなさい。	Stand here.
2	ここから始めなさい。	Start here.
3	あちらに座りなさい。	Sit over there.
4	あちらで待ちなさい。	Wait there.
5	こちらに来なさい。	Come here.
6	前に来なさい。	Come to the front.
7	前の方に来なさい。	Move forward.
8	真ん中に来なさい。	Come to the center.
9	(もう少し) 後ろに下がちなさい。	[Step/Move] back (a little).
10	並びなさい。	Line up.
11	2列になりなさい。	Make two lines.
12	4チームに分かれなさい。	Make four [teams/groups].
13	あなたはAグループです。	You are in Group A.
14	5人のグループをつくりなさい。	Make groups of five (students).
15	ペアになりなさい。	Make pairs. / Get into pairs.
16	相手を代えなさい。	Change partners.
17	向かい合いなさい。	Face each other.
18	円になりなさい。	Make a circle.
19	円になって座りなさい。	Sit in a circle.
20	歩き回って相手を見つけなさい。	Walk around and find a partner.
21	それはいりません。	You don't need that.
22	最初は誰ですか。	Who's first? / Who will go first?
23	やりたい人はいますか。	Any volunteers?
24	あなたの番です。	It's your turn. / You're next.

25	私の番です。	It's my turn.
26	どうぞ。	Go ahead.
27	お先にどうぞ。	After you.
28	役割を交代しなさい。	[Change/Switch] roles.
29	じゃんけんをしましょう。じゃんけんぽん!	Let's play rock, paper, scissors. One, two, three!
30	あなたがオニです。	You're "it".
31	ヒントを3つ言います。	I'll give you three hints.
32	答えが分かった人はいますか。	Who knows the answer?
33	質問はありますか。	Do you have any questions?
34	他に質問はありますか。	Any other questions?

#### 4 カード・ゲーム (CARD GAMES)

1	カードを取り出しなさい。	Take out your cards.
2	カードの表を[上に/下に]して置きなさい。	Put your cards face [up/down].
3	カードを裏返しなさい。	Turn over your cards.
4	カードを配りなさい。	Deal the cards.
5	カードを切りなさい。	Shuffle your cards.
6	カードを1枚取りなさい。	Take one card.
7	チームに1枚ずつです。	There is one card for each team.
8	カードを交換しなさい。	Exchange cards with a partner.
9	カードを(隣の人に/後ろに/前に)まわしなさい。	Pass the card (to the next person/backward/forward).
10	カードを掲げなさい。	Hold up your cards.
11	カードを(体の後ろに)隠しなさい。	Hide the cards (behind your back).
12	カードを机の上に広げなさい。	Spread the cards out on the desks.
13	カードを友達に見せてはいけません。	Don't show your cards to anyone.
14	カードを持ってきなさい。	Bring your cards to me.
15	カードを集めなさい。	Collect your cards.

#### 5 聞くことを中心とした活動 (LISTENING ACTIVITIES)

1	(CDを)聞きなさい。	Listen (to the CD).
2	鈴木先生の話を楽しみましょう。	Let's listen to Suzuki <i>sensei</i> .
3	CDがちゃんと聞こえますか。	Can you hear the CD clearly?
4	よく聞いて、点と点を線で結びなさい。	Listen carefully and connect the dots.

#### 6 読むことを中心とした活動 (READING ACTIVITIES)

1	お話を読みましょう。	Let's read a story.
2	一緒に読みましょう。	Let's read together.
3	これでお話は終わりです。	This is the end of the story.
4	お話は楽しめましたか。	Did you enjoy the story?

## 7 書くことを中心とした活動 (WRITING ACTIVITIES)

1	文字を書きなさい。	Write the letter together.
2	私と一緒に「A」を書きなさい。	Write the letter 'A' with me.
3	よく見てまねをして書きなさい。	Watch and copy carefully.
4	ていねいに書きなさい。	Write carefully.
5	4線の上書きなさい。	Write on the 4 lines.
6	ワークシートに単語を書きなさい。	Write the word on your worksheet.
7	1つ単語を選んで書き写しなさい。	Choose one of these words and copy it.
8	書きたい表現を選んでていねいに書きなさい。	Choose the phrase you want to copy and write it carefully.
9	鉛筆を置きなさい。	Put your pencil down.

## 8 活動の終わり (ENDING GAMES AND ACTIVITIES)

1	終わりです。	Time's up. / We're finished.
2	やめなさい。	Stop now.
3	終わったら、座りなさい。	When you're finished, sit down.
4	誰が勝ちましたか。	Who won?
5	引き分けです。	It was a tie.
6	5班の勝ちです。	Team Five are the winners.
7	いくつビンゴができましたか。	How many times did you get bingo?
8	何枚カードを持っているか数えなさい。	Count your cards.
9	一緒に数えましょう。	Let's count together.
10	何枚カードを持っていますか。	How many cards do you have?
11	何ポイント取れましたか。	How many points did you get?
12	5ポイント取った人はだれですか。	Who has five points?
13	Aグループに1ポイント。	One point for Group A.

## 9 児童への指示 (CLASS CONTROL)

1	手伝ってくれますか。	Can you help me?
2	テキストの6ページを開きなさい。	Open your textbook to page six.
3	ページをめくりなさい。	Turn the page.
4	絵を指差しなさい。	Point at the picture.
5	この絵の中の犬を探せますか。	Can you find the dog in this picture?
6	このワークシートを持っていますか。	Do you have this worksheet?
7	ワークシートに名前を書きなさい。	Write your name on the worksheet.
8	線を引きなさい。	Draw a line.
9	絵と登場人物を線で結びなさい。	Draw a line [between the picture and the character / from the picture to the character].
10	その絵まで線を引きなさい。	Draw a line to the picture.
11	聞こえません。	I can't hear you.

10

12	もう一度言ってください。	Pardon me? / Could you say that again?
13	[大きな声で/ゆっくり/はっきり] 話さない。	Speak more [loudly/slowly/clearly].
14	何が見えますか。	What can you see?
15	これが見えますか。	Can you see this?
16	これをしっかり見なさい。	Look at this carefully.
17	[私/山田先生]の後について繰り返さない。	Repeat after [me/Yamada sensei].
18	私のまねをしてください。	Copy me.
19	[私/相手/スクリーン]を見なさい。	Look at [me/your partner/the screen].
20	ここを見なさい。	Look here.
21	見せなさい。	Show it to me.
22	はい、どうぞ。	Here you are. / Here you go.
23	ありがとう。— どういたしまして。	Thank you. —You're welcome.
24	手を挙げなさい。	Raise your hands.
25	手を下ろしなさい。	Put your hands down.
26	こちらに来なさい。	Come here.
27	静かにしなさい。	Be quiet.
28	話をやめなさい。	Stop talking.
29	それについて考えなさい。	Think about it.
30	説明しなさい。	Explain.
31	私もそう思います。	I think so, too.
32	私はそう思いません。	I don't think so.
33	目を閉じなさい。	Close your eyes.
34	テキストを [閉じ/開き] なさい。	[Close/Open] your textbook.
35	リンゴを赤で塗りなさい。	Color the apple red.
36	リンゴを丸で囲みなさい。	Circle the apple.
37	2つに折りなさい。	Fold it in half.
38	絵を切り取りなさい。	Cut out the picture.
39	ノートに貼りなさい。	Glue it in your notebook.
40	あと1分です。	One minute left.
41	もう1分延長します。	I'll give you one more minute.
42	片付けなさい。	Put your things away.
43	手伝いましょうか。	May I help you?
44	1から10まで数えましょう。	Let's count from one to ten.
45	(もう少し) 練習しましょう。	Let's practice (a little more).
46	一緒に言いましょう。	Let's say it together.
47	お互いに挨拶しなさい。	Say "hello" to each other.
48	友達に謝りなさい。	Say "sorry" to your friends.
49	グループで話し合いなさい。	Talk in your group. / Discuss it in groups.

## 11 授業の終わり (ENDING CLASS)

1	今日の授業の振り返りをしましょう。	Let's review today's class.
2	振り返りカードを取り出してください。	Take out your [reflection sheet / furikaeri card].
3	今日の授業はどうでしたか。	How was today's class?
4	今日はこれで終わります。	That's all for today. / We're finished.
5	今日の授業は楽しかったですか。	Did you enjoy today's class?
6	気を付けて。	Take care.
7	さようなら。	Goodbye.
8	また [月曜日に / 来週 / 次回] 会いましょう。	See you [on Monday / next week / next time].
9	良い週末を。	Have a nice weekend.

## 12 ほめる (PRAISING)

1	正解です!	That's right!
2	よくできました!	Good! / Great! / Good job! / Well done!
3	いいアイデアですね!	Good idea!
4	素晴らしい! / いいね!	Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Super! / Perfect! / (That's) Nice!
5	がんばりましたね!	You did a good job!
6	おめでとう!	Congratulations!
7	よくやっていますね。	You're doing [fine / well / great].
8	(どうも) ありがとう。	Thank you (very much). / Thanks (a lot).
9	[彼 / 彼女] に拍手しましょう。	Let's give [him / her] a big hand.
10	手伝ってくれてありがとう。	Thank you for your help.

## 13 励ます (ENCOURAGING)

1	あきらめないで。	Don't give up.
2	心配しないで。	Don't worry.
3	よくがんばったね!	Nice try! / Good try!
4	惜しい!	Close! / Almost!
5	もう一度 [やりなさい / 言いなさい]。	[Try / Say] it again. / Once more. / One more time.
6	がんばって!	Good luck! / Do your best.
7	その調子!	Keep it up!
8	君ならできるよ。	You can do it.
9	恥ずかしがらないで。	Don't be shy.
10	それでいいですよ!	That's good!
11	落ち着いて。	Take it easy. / Relax.
12	焦らないで。	Take your time. / Don't rush.

ALT が学校に配属された場合、様々な場面で互いの意思疎通を図らなければならない。ここでは、(1) 授業内での会話例、(2) 打ち合わせ等で用いられる会話例、(3) 授業や学校に関わる表現例を取り上げる。いずれも、クラスルーム・イングリッシュとは違い、難しい表現が多くなるが、使いながらできるだけたくさんの表現に慣れるよう努力したい。

### 1 授業内での会話例

授業内で学級担任が ALT に対してよく用いる英語は、指示や提案の場合の表現である。その内容は場面や状況に応じて様々ではあるが、授業を ALT とともに円滑に進めていくためにも、使える表現を少しずつ増やしていきたいものである。

#### 14 ALT の考えを聞く

1	クラスみんなに自己紹介をしてください。	Could you introduce yourself to the class?
2	児童にあなたの国と日本との違いや同じところを話していただけますか。	Could you tell the students about the differences and similarities between the country you're from and Japan?
3	今日の授業はどうでしたか。	How was today's class?
4	児童にアドバイスしてください。	Please give the students some advice.

#### 15 ALT とゲーム等の説明をする

1	私たちにゲームのルールを説明してください。	Please explain the rules of the game.
2	スキットをやってみせましょう。	Let's demonstrate the skit to the class.
3	「ポケットに何を持っていますか」と私にたずねてください。	Please ask me the question, "What do you have in your pocket?"
4	あなたは A をしてください。私は B をします。	You'll be A, and I'll be B.
5	やりたい人がいるかたずねてください。	Could you ask for volunteers?
6	ゲームをする 2 人を選んでください。	Please choose two students for the game.

#### 16 ALT に依頼する

1	もう一度言ってください。	Say it again, please.
2	(もう少し) ゆっくり言ってください。	(A little more) Slowly, please.
3	英語で言ってくれませんか。	Could you say that in English?
4	黒板に絵を描いてください。	Please draw the picture on the blackboard.
5	歩いて回って児童を手伝ってください。	Please walk around and help the students.
6	手伝ってくれますか。	Could you help me?
7	少し(作業を中断させて)いいですか。	May I interrupt you for a moment?

## 17 ALTに時間について知らせる

1	時間です。終了しなければなりません。	Time's up. We have to finish now.
2	あと5分あります。	We have five more minutes.
3	十分な時間はありません。	We don't have enough time.

## 2 打ち合わせ等で用いられる会話例

ここでは、打ち合わせ等で用いられる表現を整理した。ALTと円滑にティーム・ティーチングを進めるには、事前にALTと打ち合わせをし、さらに授業後に授業評価をすることが大切である。互いに助け合いながら授業を進めるためにも、一つ一つのことをていねいに確認しながら打ち合わせることが望まれる。

## 18 スケジュールについて

1	A小学校に9時に来てください。	Please come to A Elementary School by 9 o'clock.
2	今日のスケジュールを変更しました。	Today's schedule has changed.
3	今日は4時間授業があります。	You have four classes today.
4	2、3、5、6時間目に授業があります。	You have classes in the second, third, fifth and sixth periods.
5	[6年生/6年2組]の授業は2時間目です。	[Grade six/Grade six, class two] will be in the second period.
6	今日の授業は40分です。	The classes are forty minutes long today.
7	10分後に授業が始まります。	The class will start in ten minutes.
8	12時25分に授業が終わります。	The class will finish at twelve twenty-five.
9	これが[今年/今月]のスケジュールです。	This is the schedule for this [year/month].

## 19 場所について

1	今日は図書室で授業をします。	Today, we will have class in the library.
2	今日は児童を外に連れて行きましょう。	Let's take the students outside today.

## 20 カリキュラムと授業について

1	これは5年生のカリキュラムです。	This is the curriculum for the fifth grade.
2	これは今日の指導案です。	This is today's lesson plan.
3	この単元では[色/買い物]について学びます。	The students are going to learn about [colors/shopping] in this unit.
4	児童にこれらの基本表現を使ってほしいです。	We want the students to use these basic phrases.
5	「はい、どうぞ」という表現を教えたいのですが。	I'd like to teach the phrase, "Here you are."
6	この単元の最後には自己紹介ができるようになってほしいです。	At the end of this unit we want the students to be able to introduce themselves.
7	児童は世界中の伝統的な衣装について学びたいと思っています。	The students would like to learn about traditional clothes from around the world.

8	これらの単語を [使いたい/教えたい] です。	I want to [use/teach] these words.
9	児童はこれらの単語を知っています。	The students know these words.
10	児童はこれらの単語を知りません。 新出単語です。	The students don't know these words. These are new words.
11	どう綴るのですか。	How do you spell it?
12	どう発音するのですか。	How do you pronounce it?
13	児童は "What animals do you like?" "I like dogs." の表現を学んでいます。	The students are learning the expressions, "What animals do you like?" "I like dogs."
14	あなたの国の動物について 話してもらえませんか。	Could you talk about animals found in your country?
15	動物の名前を使ったゲームを知っていますか。	Do you know any games using animal names?
16	動物の歌を知っていますか。	Do you know any songs about animals?
17	何か提案はありませんか。	Do you have any suggestions?
18	一緒にクイズをしましょう。	Let's do the quiz together.
19	児童に [会話/対話] のモデルを やって見せます。	We will show the students a model of the [conversation/dialog].
20	歌った後、ゲームをしたいです。	After the song, I want to play a game.
21	サイモン・セズ・ゲームをした後、 歌を歌いましょう。	After playing Simon Says, let's sing a song.
22	私がピアノを弾いている間、 児童と歌を歌ってくれませんか。	While I am playing the piano, could you sing with the students?
23	あなたがサイモン・セズ・ゲームをしている間、 私は歌の用意をします。	While you are playing Simon Says, I will get the music ready.
24	この方法でゲームを試してみましょう。	Maybe we can play the game this way.

## 21

### 授業の評価について

1	今日の授業についてどう思いましたか。	What did you think of today's lesson?
2	今日の授業は [とてもよかった/ そんなによくなかった] です。	Today's lesson was [very good/ not so good].
3	もっと (児童に) ゆっくり話す必要があります。	You need to speak more slowly (to the students).
4	もう少し [ゆっくり/大きな声で] 言っただけませんか。	Could you speak [more slowly/in a louder voice]?
5	もう少し簡単な英語で言っただけませんか。	Could you speak in simpler English?
6	よいアイデアですが…。	That's a good idea, but...
7	はっきりとはわかりません。	I'm not sure.
8	大丈夫です。	No problem.
9	なるほど。	I see.
10	ゲームを変えた方がよいと思います。	I think we should change the game.
11	5年生にとってはよくないと思います。	I don't think it's good for the fifth graders.
12	6年生にとってはその方がよいと思います。	I think it's better for the sixth graders.
13	授業をもっとよくするための提案は ありませんか。	Do you have any suggestions to make the class better?

**22 次時以降について**

1	これは次の時間の指導案です。	This is the lesson plan for the next class.
2	次の時間では新しい活動を始めます。	We will start a new activity in the next class.
3	次の時間はいろいろな言葉での挨拶について学びます。	In the next class, we will learn about greetings in many languages.

**23 教材の作成等について**

1	コンピュータでワークシートを作ってくださいませんか。	Could you make a worksheet on the computer?
2	このワークシートをコピーしていいですか。	May I make copies of this worksheet?
3	コンピュータにデータを入力しましょう。	Let's put the data into the computer.
4	あなたのUSBメモリースティックを使う前に(このように)ウイルスチェックをしてください。	Please do a virus check (like this) before you use your USB memory stick.
5	練習用のビデオを作りましょう。	Let's make a practice video.
6	絵カードを作らなければなりません。	We need to make picture cards.

**24 授業以外について**

1	児童と一緒に昼食を食べられますか。	Could you have lunch with the students?
2	この児童には特別な支援が必要です。	This student has special needs.
3	この児童は[自閉症です/耳に障害があります/目に障害があります]。	This student has [autism/trouble hearing/trouble seeing].

**3 授業や学校に関わる表現例**
**25 (1) 教材・教具等**

テキスト	textbook	DVDプレーヤー	DVD player
ワークシート	worksheet	OHC	overhead camera
絵カード	picture card	液晶プロジェクター	projector
絵本	picture book	パソコン	PC/personal computer
サイコロ	dice	タブレットパソコン	tablet
指人形	[finger/hand] puppet	USBケーブル	USB cable
指導案	lesson plan	USBメモリースティック	USB memory stick
テープレコーダー	cassette-tape recorder	デジタル教科書	digital textbook
CDプレーヤー	CD player	デジタル絵本	digital picture book
ビデオデッキ	VCR/video cassette recorder	電子黒板	electronic whiteboard

## (2) 科目等

国語	Japanese	外国語活動	foreign language activities
社会	social studies	総合的な学習の時間	period for integrated study
算数	math/mathematics	道徳	moral education
理科	science	特別活動	special activities
音楽	music	クラブ活動	club activities
図画工作	arts and crafts	委員会活動	student committee activities
体育	P.E./physical education	係活動	class monitor duties
家庭	home economics	学級会	homeroom
英語	English	児童会	student council

## (3) 部屋・場所等

教室	classroom	会議室	meeting room
理科室	science room	倉庫	storage room
音楽室	music room	トイレ	restroom/washroom
コンピュータ室	computer room	男子トイレ	boys' room
家庭科室	cooking room	女子トイレ	girls' room
図書室	library	手洗い場	hand washing [area/sink]
体育館	gym	廊下	hallway
運動場	playground	階段	stairs
プール	swimming pool	屋上	rooftop
中庭	courtyard	1階	first floor
保健室	nurse's office	2階	second floor
放送室	broadcasting room	玄関	entrance
職員室	teachers' office	駐車場	parking lot
校長室	principal's office	掲示板	notice board/bulletin board

## 28 (4) 職員等

校長	principal	英語指導助手	ALT/Assistant Language Teacher
教頭／副校長	vice principal	学校事務員	school secretary
教師	teacher	教育委員会	board of education
養護教諭	school nurse	指導主事	supervisor of school education

## 29 (5) 学校行事等

(教師の)朝会	morning meeting for teachers	文化祭	Cultural Festival
(児童の)朝会	morning assembly	創立記念日	School Foundation Day
職員会議	staff meeting	遠足	field trip
休み時間	recess	修学旅行	school trip
始業式	Opening Ceremony	授業参観	open [school/house]
終業式	Closing Ceremony	参観日	Parent Visitation Day/ Open Day
入学式	Entrance Ceremony	研究授業	[observation/demonstration] lesson
卒業式	Graduation Ceremony	給食	school lunch
1学期	first term	清掃	cleaning
2学期	second term	家庭訪問	home visit
3学期	third term	個人懇談	parent-teacher meeting
運動会	Sports [Day/Festival]		

Small Talkとは、高学年新教材で設定されている活動である。2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。また、5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行う。

なお、Small Talkのその意義や指導上の留意点については、「授業研究編Ⅱ 授業研究の視点⑤ Small Talk」(p84)で触れているので参照されたい。ここでは、新教材で扱う Small Talkの代表例を、学年ごとに紹介する。

## 1 5年生

### 30 UNIT 1 How do you spell it?

T: Hello, everyone. My name is Takeshi. T-a-k-e-s-h-i, Takeshi.  
 Nice to meet you. I'm from Takayama. I like pizza. Pizza is delicious.  
 But I don't like sweets. I don't like candy. I don't like chocolate.  
 How about you? What food do you like?  
 S1: I like sweets. I like chocolate very much.  
 T: Oh, you like chocolate?  
 How about colors?  
 I like blue. What color do you like?  
 S2: I like blue.  
 T: Oh, the same.

### 31 UNIT 2 When is your birthday?

T: My birthday. My birthday is January 2nd. It's during *Oshogatsu*.  
 When is your birthday? January? February? March? When is your birthday, Ken?  
 S1: 5月19日  
 T: I see. May 19th. Your birthday is May 19th. Good. How about you, Yoko?  
 S2: 12月22日  
 T: December 22nd. Your birthday is December 22nd. It's during the Christmas season. Nice.  
 What do you want for your birthday? As a birthday present. Me? I want a new watch.  
 How about you?

### 32 UNIT 3 What do you have on Monday?

T: Look. This is my bag. (自分のカバンを見せながら)  
 It's heavy. (自分のカバンを持って重そうに)  
 Please feel it. (自分のカバンを児童に差し出しながら)  
 What's inside it? What do I have in my bag? A book? Pens?  
 What do I have in my bag? Can you guess?  
 Please feel it. (別の児童に自分のカバンを差し出しながら)  
 S1: Pencils?  
 T: Pencils? Good idea. But not pencils, I'm sorry. Listen. (カバンを少し振って見せながら)

T: What do I have in my bag?

S2: A watch?

T: A watch? Watches? Great! That's right.

Look, a watch. (腕時計を1つ取り出しながら)

Look, another watch. (もう1つ腕時計を取り出しながら)

And another watch. (また1つ腕時計を取り出しながら)

Oh, one more watch. (また1つ腕時計を取り出しながら)

Wow, another watch. (また1つ腕時計を取り出しながら)

Umm, anymore? Oh, one more watch. (また1つ腕時計を取り出しながら)

OK. How many... how many watches?

### 33 UNIT 4 What time do you get up?

T: This is my daily routine. (黒板に 5:30、6:00、6:45 などいくつかの時刻を書いておく)

I get up at 5:30. (時刻を指し示しながら)

I'm sleepy. (伸びをしながら) Good morning.

I brush my teeth. (歯を磨くジェスチャーをしながら)

I wash my face. (顔を洗うジェスチャーをしながら)

I'm hungry. (お腹が減ったジェスチャーをしながら)

Oh, breakfast! I eat breakfast at 6:00. I eat rice and *miso* soup for breakfast.

Look, this is my *miso* soup. (お椀の絵を描く) I have many kinds of vegetables in my *miso* soup. What's in my *miso* soup? (児童とやり取りしながら) Cabbage, carrot, onion, and mushroom. My *miso* soup is very nice!

And fried eggs. (目玉焼きの絵を描いて) Two eggs! Sunny-side up.

What do you eat for breakfast?

### 34 UNIT 5 She can run fast. He can jump high.

T: Look! Look at this. What's this?

S: A racket.

T: Yes, that's right. It's a racket. It's a badminton racket. This is my badminton racket.

I can play badminton very well. (ラケットを振って見せる)

Can you play badminton well? Do you like badminton?

I love badminton. It's very fun. I'm a good badminton player.

I can play badminton very well.

Can you play badminton?

Can you play soccer well? (ボールを蹴るジェスチャーをしながら)

Can you play the piano well? (ピアノを弾くジェスチャーをしながら)

Can you dance well? (ダンスのジェスチャーをしながら)

Can you do *kendo*? (竹刀を振るジェスチャーをしながら)

I can play badminton well.

### 35 UNIT 6 I want to go to Italy.

T: This is Japan. (世界地図を示しながら)

We live in Japan. We are from Japan. Tom *sensei* is from Canada.

Where is Canada? Yes. It's here.

There are many countries around the world. For example, Australia, India, Kenya, Egypt, Brazil and so on.

Which country do you want to go to? Where do you want to go?

Me? New Zealand! (ニュージーランドの風景写真を見せながら) I want to go to New Zealand.

Look. It's beautiful! I want to go to New Zealand.

You can see beautiful mountains, beautiful beaches and beautiful lakes in New Zealand.

And I have a friend in New Zealand. I want to meet my friend, an ALT, Kate *sensei*!

She is from New Zealand. She is a teacher in New Zealand now.

So I want to go to New Zealand. Do you want to go to New Zealand, too?

### 36 UNIT 7 Where is the treasure?

T: Look at this. This is my treasure. My treasure.

What is it? Can you guess what it is? A letter?

Yes, that's right. This is a letter. A letter from who? Who gave it to me? A friend?

My friend?

Yes, that's right. From my friend. This is a letter from my friend, Chiharu.

She was my best friend in elementary school. We were very good friends.

Then she moved to Hokkaido with her family.

We said goodbye. (別れるジェスチャーをしながら)

I was very sad. (泣くジェスチャーをしながら)

She gave me the letter. It is a very nice letter! And it's very important to me.

This is my treasure.

What's your treasure?

### 37 UNIT 8 What would you like?

T: I like pizza. What food do you like?

I like pizza very much. I like cheese very much. Pizza is very delicious.

Do you like pizza? Yes? Good.

What kind of pizza do you like? Seafood pizza? Mushroom pizza? *Margherita*?

I especially like *quattro formaggi*. It's very delicious.

The topping has four kinds of cheese and honey. Mmm... yummy!

Do you want to try it?

### 38 UNIT 9 Who is your hero?

T: Who is your hero?

My hero is Itani *sensei*. She is a nice teacher. She can play the piano well. She can swim fast. She can run fast, too. And she is kind to you and me. She is a nice teacher. She is my hero.

39 **UNIT 1 This is me.**

S1: What sport do you like?

S2: I like soccer.

S1: You like soccer? That's nice. Why?

S2: It's fun. How about you? What sport do you like?

40 **UNIT 2 Welcome to Japan.**

S1: What country do you want to go to? Where do you want to go?

S2: I want to go to Italy.

S1: You want to go to Italy? That sounds nice. Why?

S2: I like pizza. How about you?

S1: I want to go to Canada.

S2: You want to go to Canada? That's nice. Why?

S1: Canada is very beautiful.

41 **UNIT 3 He is famous. She is great.**

T: I live in America. I'm very popular in America and Japan.

I like curry and rice. I'm good at running. I play baseball in America.

Who am I?

42 **UNIT 4 I like my town.**

S1: My favorite place is the library.

S2: The library? Why?

S1: I like books.

S2: What books do you like?

43 **UNIT 5 My Summer Vacation**

S1: What food do you like in summer?

S2: I like watermelon.

S1: Me, too. Why?

S2: It's sweet. How about you?

44 **UNIT 6 What sport do you want to watch?**

S1: What sport do you want to watch?

S2: I want to watch soccer.

S1: Soccer? That's nice. Why?

S2: I like soccer. How about you? What sport do you want to watch?

S1: Me? Umm, I want to watch badminton.

S2: Badminton? Do you like badminton?

S1: Yes. I like badminton. I can play badminton well.

 45 **UNIT 7 My Best Memory**

S1: I enjoyed eating *osechi* during winter vacation.

S2: You enjoyed eating *osechi*? That sounds interesting.

S1: How about you?

S2: I enjoyed having a Christmas party. It was exciting.

 46 **UNIT 8 What do you want to be?**

S1: Where do you want to go?

S2: I want to go to Hawaii.

S1: You want to go to Hawaii? That sounds nice. Why?

S2: I like swimming. And I want to see the beautiful sea. How about you?

Where do you want to go?

 47 **UNIT 9 Junior High School Life**

S1: What club do you want to join?

S2: I want to join the newspaper club.

S1: The newspaper club? I see. I want to join the tennis club.

S2: Can you play tennis well?

S1: I'm not good at tennis. But I like tennis.

英文を「英語らしく発話する」鍵は、「イントネーション」「強勢」「リズム」「語の連結」にある。同じ英文でもこれらが変化すると意味内容が変わってしまうため、発話内容を明確に伝えるためには、この4点が重要となる。ここでは、実際に新教材で扱われる表現を使って、これらを練習する。モデル音声をよく聞き、やや大きめに発音するくらいの気持ちでまねてほしい。

## 1 イントネーション

文中にもイントネーションは現れるが、ここでは文末に特化して、「Yes-No 疑問文」「WH 疑問文」「or を含む選択疑問文」「平叙文・命令文など」の4パターンについて練習する。

### 48 (1) Yes-No 疑問文

文末を上げて発話される。文末を上げることにより、聞き手に疑問文であることを確実に伝えることができる。

Do you like blue? ↑  
Can you play baseball well? ↑

### 49 (2) WH 疑問文

文末を下げて発話される。疑問詞で始まるため、文末を上げなくても聞き手は疑問文であることを理解できる。

How's the weather? ↘  
What sport do you like? ↘

### 50 (3) or を含む選択疑問文 (A or B?)

A は上げ、B は下げて発話される。

Do you like baseball ↑ or soccer? ↘

### 51 (4) 平叙文・命令文など

文末を下げて発話される。文末を上げて発話すると、疑問文と受け取られる可能性があるの  
で注意する。

I like blue. ↘  
Go straight for three blocks. ↘

## 2 強勢

内容を明確に伝えられるように、強調したい語(太字の部分)は強く長めに発音され、これを「強勢」と言う。強勢は、名詞、動詞、形容詞などの内容語に置かれることが多い。

- 52 No.1 How **are** you? (気分はどうですか)  
I'm **happy**. (よいです)  
How are **you**? (あなたは どうですか)
- 53 No. 2 What **time** do you get **up**? (あなたは何時に起きますか)  
I get up at **six**. (私は 6 時に起きます)
- 54 No. 3 **Where** do you want to **go**? (あなたはどこに行きたいですか)  
I want to go to **Italy**. (私はイタリアに行きたいです)  
Where do **you** want to go? (あなたはどこに行きたいですか)  
**I** want to go to Italy, **too**. (私もイタリアに行きたいです)

### 3 リズムと語の連結

英文では、強勢が置かれる語、または句がほぼ等間隔で読まれる傾向がある（英語のリズム）。ほぼ等間隔で現れる強勢（●の付いた語）を聞き取ることで、聞き手は英文の大意を楽につかめるのである。

また、英語が話される場合に、一語一語が独立しておらず、複数の語が連続して発音されることがある（語の連結）。以下、語の連結によって音の変化が起きる例を  で示す。CD に合わせて発話し、英語のリズムと語の連結を体感していただきたい。

55 No.1

Nice to meet  you.

● ○ ● ○

Nice to meet  you, too.

● ○ ○ ○ ●

56 No.2

What would  you like?

● ○ ○ ●

I'd like some coffee, please.

○ ○ ○ ● ○ ●

57 No.3

What food would  you like?

○ ● ○ ○ ●

I'd like spaghetti and pizza.

○ ○ ○ ● ○ ○ ● ○

58 No.4

What  time do you get  up?

○ ● ○ ○ ○ ●

I always get   up  at six in the morning.

○ ● ○ ○ ● ○ ● ○ ○ ● ○

# 5

## 発音トレーニング

日本語と英語とでは、構成している音が大きく異なるため、英語の音の特徴を意識して練習することが大切である。以下の解説を読み、その部分の強勢や音を意識しながら、繰り返し発音していただきたい。また、動画配信サイト YouTube の文部科学省公式チャンネル (<http://jp.youtube.com/mextchannel>) の発音動画も参考にしてほしい。なお、本節の発音練習で取り上げた語彙のほとんどは、新教材で取り扱われている語彙、または文部科学省の研究開発学校の複数の学校・学年で扱われたものである。

### 1 カタカナ英単語

日本語として定着しているカタカナ英単語の「強勢」（強く読まれる箇所）と「音」には特に注意が必要である。強勢の置かれる部分を発音する際には、自身が考えるよりも多くの息を吐き出して強く言うと、より英語らしく聞こえるようになる（例：**banana, guitar, orange**）。身の回りにあるカタカナ英単語の多くは「日本語の発音では通じない」ことを念頭に置き、辞書等で発音を確認するなどして発音していただきたい。

### 2 代表的な母音の発音

hat「帽子」と hut「小屋」の発音をカタカナで示すと両方とも「ハット」だが、英語では hat の a の発音は /æ/ で、hut の u の発音 /ʌ/ とは異なる。異なる単語を同じ音で発音すると、発話内容が正確に伝わらない危険がある。より正確に伝えられるよう、似た母音を言い分けられるようにしたい。

æ	にっこり笑うように口を横に開け、顎を下げて、口の前のほうで「エ」の直後に「ア」と発音する。 apple, animal, astronaut, alphabet, cat, Canada, panda, class, basketball, banana
ʌ	唇の緊張を解き、軽く開けて、口の奥で短く「ア」と発音する。 up, onion, under, summer, color, monkey, study, gloves, hundred, Monday
ɑ	顎を下げ、口を縦に大きく開けて、口の奥から「ア」と少し長めに発音する。 omelet, box, hot, watch, hospital, dodgeball, volleyball, block, clock, stop
ə	唇と舌の緊張を解き、口を少し開けて軽く「ア」と発音する。 この部分に強勢が置かれることはない。 again, Olympic, hello, potato, Japan, computer, science, welcome, breakfast
e	日本語の「エ」よりも、口を縦横に大きく開いて「エ」と発音する。 elephant, pen, red, head, melon, menu, cherry, dentist, special, sweater
i	唇の緊張を解き、口を軽く開けて、口の奥で短く「イ」と発音する。「イ」と「エ」の間のような音。 English, India, big, six, sing, milk, pink, dinner
i:	にっこり笑うように口を横に開け、唇を緊張させて、口の前方で「イー」と発音する。 eat, Egypt, meat, see, hero, teacher, sweet, green, speak, dream

u	唇をあまり緊張させずに軽く丸めて突出し、喉から軽く「ウ」と発音する。 book, cook, look, good, cooking, goodbye, bookstore, notebook, January, February
u:	唇を少し緊張させ、軽く丸めて突出して、喉から「ウー」と発音する。 zoo, cool, food, room, pool, June, noodle, school, blue, glue
ɔ:	顎を下げ、口を縦に開き、唇の緊張を解いて、喉から「オー」と発音する。暗い「アー」に似た音。 August, always, ball, fall, saw, small, draw, walk, because, strawberry
au	「アウ」という音。「ア」は強く、「ウ」は弱く発音する。「ウ」は /u/ を参照のこと。 out, down, town, brown, mouse, outside, about, around, mountain, counselling
ai	「アイ」という音。「ア」は /au/ の /a/ を、「イ」は /i/ の音を参照のこと。 「ア」は強く、「イ」は弱く発音する。 eye, ice, my, fine, nice, kind, time, right, Friday, China
ei	「エイ」という音。「エ」は /e/ を、「イ」は /i/ の音を参照のこと。 「エ」は強く、「イ」は弱く発音する。 April, play, day, make, cake, table, baseball, steak, station, grapes
ou	「オウ」という音。「オ」は唇を軽く開けて、口の奥で「オ」と発音する。 「ウ」は /u/ を参照のこと。「オ」は強く、「ウ」は弱く発音する。 old, go, cold, don't, home, nose, post, notebook, October, potato
ɑ:r	顎を下げ、口を大きく開けて、喉から「アー」と発音しながら、舌尖を少し上げ奥へ移動させる。 舌を口蓋（上歯茎の奥の引っ張っている部分）に触れないように注意する（以下、/r/ 音に関して同様）。 art, star, card, heart, park, March, party, marker, marble, sharpener
ɔ:r	/ɔ:/ と発音しながら、舌尖を少し上げ奥へ移動させる。 corn, short, pork, four, forty, sport, store, corner, morning, recorder
ə:r	唇をやや緊張させ前方に突き出して、「アー」と発音しながら、舌尖を少し上げ奥へ移動させる。 girl, first, third, nurse, circle, purple, world, T-shirt, Thursday, birthday
əʀ	唇の緊張を解き、口を軽く開け、舌を奥に引きながら「アー」と発音する。 強勢が置かれることはない。 color, tiger, doctor, junior, number, member, November, calendar, afternoon, wonderful

### 3 日本語にはない特殊な子音の発音

英語の子音の多くは日本語の子音に極めて似ている。しかし、日本語にはない特殊な子音が英語にはいくつかある。例えば thank「感謝する」の th の発音は /θ/ で、sank「沈んだ」の s (/s/) とは異なる。なお、子音は語頭及び強勢の置かれる箇所ではたいていたっぷりとした息や声で発音されるが、他の部分では軽く発音される。以下では、語頭及び強勢の置かれる箇所での発音方法の説明をする。

θ	舌先を上の前歯の裏に軽く触れさせたまま、摩擦させるように息を出して発音する。「ス」のような息音。 three, think, thank, thirty, Thursday, bath, math, fifth, twelfth, birthday
ð	/θ/ と同じ要領で、摩擦させるように声を出して発音する。「ズ」のような音。 this, that, they, father, mother, brother, weather, grandfather, grandmother
f	下唇を上歯で軽く押さえたまま、摩擦させるように息を出して発音する。「フ」のような息音。 fun, five, fire, festival, friend, Friday, France, fifty, left, elephant
v	/f/ と同じ要領で、摩擦させるように声を出して発音する。「ヴ」のような音。 very, visit, volunteer, live, have, twelve, seven, never, November, eleven
ʃ	唇の緊張を解き少し前方に出し、「シ」と息を出して発音する。 she, shrine, short, shop, wash, radish, English, fishing, station, mushroom
r	舌先を口蓋に触れないようにしながら奥に引いたまま、「ル」と声を出して発音する。こもった「ウ」のような音。 run, read, rabbit, rainy, river, ruler, Russia, hungry, America, library
l	舌先を上の前歯の裏に付け、舌の両側の隙間から息を出して「ル」と発音する。 long, let's, left, well, blue, black, salad, yellow, July, animal

### 4 その他の子音の発音

次に示す英語の子音は、日本語の子音の音に極めて似ているが、まったく同じ音ではない。なお、発音の際には、「3 日本語にはない特殊な子音の発音」での注意を参考にしていきたい。

p	両唇をしっかり閉じ、「プツ」と息を吐いて発音する。 pen, pink, park, pants, piano, cup, cap, stop, supermarket, pineapple
b	/p/ と同じ要領で、「ブツ」と声を出して発音する。 big, beach, boots, baker, birthday, banana, Brazil, club, notebook, cabbage
t	舌先を上歯茎にしっかりと付け、離すと同時に「トゥ」と息を口から吐いて発音する。 ten, tea, time, team, best, white, elephant, chocolate, amusement, dentist
d	/t/ と同じ要領で、「ドゥ」と声を出して発音する。 date, desk, dinner, December, delicious, good, sad, card, friend, enjoyed

<b>k</b>	喉の奥で発音することがコツ。「クツ」と息を吐いて発音する。 cat, cup, milk, <u>K</u> orea, <u>bl</u> ack, <u>st</u> eak, <u>mu</u> sic, <u>w</u> alk, <u>co</u> ok, <u>cl</u> ock
<b>g</b>	/k/と同じ要領で、喉の奥で「グツ」と声を出して発音する。 go, get, <u>g</u> ame, <u>gr</u> eat, <u>gr</u> andparent, <u>ba</u> g, <u>bi</u> g, <u>le</u> g, <u>ma</u> gnet, <u>ti</u> ger
<b>tʃ</b>	舌を上歯の裏に付け、離すと同時に「チツ」と息を吐いて発音する。 <u>ch</u> erry, <u>ch</u> air, <u>Ch</u> ina, <u>lun</u> ch, <u>be</u> ach, <u>pe</u> ach, <u>wa</u> tch, <u>tea</u> cher, <u>fu</u> ture, <u>cu</u> lture
<b>dʒ</b>	/tʃ/と同じ要領で、「ヂツ」と声を出して発音する。 <u>j</u> ump, <u>ju</u> ice, <u>ju</u> nior, <u>Ja</u> nuary, <u>Ja</u> pan, <u>Ge</u> rmany, <u>or</u> ange, <u>br</u> idge, <u>en</u> joy, <u>su</u> bject
<b>m</b>	唇を閉じたまま、鼻から音を抜いて発音する。 <u>ma</u> p, <u>me</u> et, <u>ma</u> rble, <u>ma</u> ny, <u>mo</u> uth, <u>mo</u> nkey, <u>di</u> amond, <u>cu</u> cumber, <u>gy</u> m, <u>sw</u> im
<b>n</b>	口を少し開けることがポイント。舌先を上歯茎の付け根に付けて、鼻から音を抜いて発音する。 <u>no</u> , <u>ni</u> ce, <u>ne</u> w, <u>nu</u> mer, <u>no</u> tebook, <u>te</u> n, <u>gr</u> een, <u>sta</u> tion, <u>pe</u> ncil, <u>mo</u> rning
<b>ŋ</b>	舌の後部を上あごの奥に付け、口を少し開けて、鼻から音を抜いて「ング」と発音する。 <u>lo</u> ng, <u>si</u> ng, <u>fi</u> shing, <u>sw</u> imming, <u>ca</u> mping, <u>pu</u> dding, <u>mo</u> rning, <u>ex</u> citing, <u>str</u> ong, <u>sp</u> ring
<b>s</b>	舌先を上歯茎の裏に近づけ、「ス」と息を吐いて発音する。 <u>so</u> up, <u>sp</u> ort, <u>sq</u> uare, <u>so</u> ccer, <u>so</u> rry, <u>Sa</u> turday, <u>po</u> lice, <u>pe</u> ncil, <u>sc</u> ience, <u>si</u> ster
<b>z</b>	/s/と同じ要領で、「ズ」と声を出して発音する。 <u>zo</u> o, <u>bu</u> sy, <u>pl</u> ease, <u>Tu</u> esday, <u>Br</u> azil, <u>mu</u> seum, <u>ne</u> ws <u>pa</u> per, <u>Ja</u> pane <u>se</u> , <u>sc</u> iss <u>o</u> rs
<b>h</b>	おなかに息を溜めて、「ハ」と息を吐いて発音する。 <u>hi</u> gh, <u>ha</u> t, <u>ha</u> ppy, <u>he</u> art, <u>ho</u> use, <u>ho</u> me, <u>hu</u> ngry, <u>ho</u> spital, <u>ha</u> m <u>bu</u> rger, <u>he</u> llo
<b>w</b>	唇を緊張させ、丸めて前方に突出し、短く「ウォツ」と声を出して発音する。 <u>w</u> ent, <u>w</u> ould, <u>w</u> inter, <u>w</u> alk, <u>w</u> eather, <u>w</u> elcome, <u>We</u> dnesday, <u>sw</u> im, <u>sw</u> ee <u>t</u> , <u>tw</u> enty
<b>j</b>	唇をやや緊張させ、口を横に開けて、舌を上顎に近づけて、その隙間から息を出して「イ」と発音する。 <u>yo</u> u, <u>yo</u> ur, <u>ye</u> s, <u>ye</u> n, <u>ye</u> llow, <u>ye</u> ar, <u>yo</u> ung, <u>y</u> ummy, <u>yo</u> gurt, <u>ye</u> sterday

指導者が英語力を向上させていくには、児童の外国語学習同様に、聞いたり、読んだりするインプットの量と質が重要である。ここでは、リスニングの能力を向上させる、すぐに使えるテクニックを紹介したい。

### 1 英語を聞き取れないのはなぜか

英語を聞き取れないからといって、英語を聞き取る力自体だけが低いとは限らない。語彙力や文法知識の不足がその原因となっていることは少なくない。知らない単語は何度聞いても聞き取ることはできない。また、何度読んでも理解できない文については、もちろん聞き取ることはできない。語彙力や文法知識を身に付けることも重要である。このとき、ただ闇雲に単語帳で勉強することも可能であるが、まずはどのような場面で英語を聞き取る必要があるのか、つまり目標を設定することが必要である。多くの先生方にとってのリスニング場面は、ALT とのやり取りや授業などでの日常会話が多いことが予測できる。それでは、どのような場面で使われる単語を勉強すればよいのかはもう自明であろう。ぜひ、そのような場面で使われる単語を身に付けてほしい。

### 2 すべてを聞き取る必要はない

相手が日本語で話していることをそっくりそのまま繰り返ささいと言われたとき、果たして、どの程度それができるだろうか。私たちは、聞いていることを整理しながら、その内容を理解している。つまり、話の要旨を理解しているのである。それにもかかわらず、英語のリスニングとなると、一字一句を聞き取らなければならないと思う人が少なくない。英語の場合にも、相手の伝えたい要旨が理解できさえすればよいのである。英語のリスニングでは、特に「相手が言いたいことは何か？」を強く意識することが大切である。

### 3 勉強方法の例

#### (1) 内容が理解できるものを聞く

聞いている話の内容が理解できない場合、リスニング力の向上には寄与しない。教材選びの際には、絵や資料のあるものを選ぶとよい。また背景知識をもっているトピックを聞いてみるのもよい。さらに、同じ材料を繰り返し聞くこともリスニング力の向上につながる。

#### (2) 自分にとって意味のあるものを聞く

自分の興味のある話題を扱った教材を選び、内容を理解する練習から始める。自分の興味のある話題のほうが、内容理解が進むのは当然だが、記憶にも定着しやすい。

#### (3) シャドーイングしてみる

シャドーイングとは、音声（比較的易しめの英文がよい）を聞いた後に、すぐに復唱するという活動である。この際、できるだけ音声教材をまねて言うようにすると、個々の音を聞き取る力が付くだけでなく、英語らしいリズム、イントネーションにも慣れるはずである。

指導者の重要な役割は、児童に理解可能で自然なインプットを提供することであり、そのためにも、スピーキング能力の向上が欠かせない。

## 1 英語を口にすることに慣れる

歌をうまく歌えるようになるには、大きな声で歌うことも大切である。同様にスピーキングの力を付けるための練習でも、声に出しながら英語に慣れることが大切である。そこで、英語を声に出して言うことを習慣付けるようにする。

### (1) クラスルーム・イングリッシュ

児童の前で英語を話すことが恥ずかしい、発音に自信がないといって躊躇すると、児童も同じように英語を口にすることに不安をもつようになる。自信をもって声を出せるようにするために、短く一気に言えるクラスルーム・イングリッシュから使い始め、慣れてきたら、少しずつ長い表現にも挑戦してみる。

### (2) ALT との打ち合わせ

指導案をもとに、相手に自分の言いたいことを伝えるようにする。はじめから完璧な英語で話そうとせず、知っている表現を使い、ALT に助けてもらいながら打ち合わせを進めるようにする。そうすることで、英語表現に慣れ親しむことができる。

## 2 言いにくい言葉は後回しにする

学習を進めていくうちに、どうしても言いにくい単語や表現に出会うことがある。そのようなときには、あまりその単語や表現にこだわらないことが大切である。英語に慣れていくうちに、かつては難しかった語や表現も簡単に理解できるようになり、使いこなすことができるようになる。難しい語や表現を使えるようになる前に、取り組みやすいところから取りかかるようにすることが大切である。

## 3 勉強方法の例

### (1) 英語の音声をできるだけ正確にまねる

英語の音声のリズムに慣れていない段階では、どうしても日本語のような話し方になってしまう。それを防ぐためには、音声教材（新教材や『Hi, friends!』等）のまねをすることを推奨する。それでもできない場合は、専科教員やALT に直してもらおうとよい。

### (2) 独り言を言ってみる

英語を話す相手がないのであれば、独り言を言う。通勤途中に目の前の状況を描写してみたり、今日一日の予定や今日起きた出来事を英語で話してみたりすることなどが考えられる。

### (3) 相手と会話する

(1) と (2) は一人でできるが、実際に英語を使う場面では、相手に話しかけたり、質問したりするので、話し相手がいる練習が欠かせない。ALT に積極的に話しかけてみたり、専科の先生や同僚と（少し気恥ずかしいが）英語で会話してみたりしよう。

指導者が英語力を向上させていくには、聞いたり、読んだりするインプットの量と質が重要である。リスニングで紹介した内容はリーディングにも基本的に当てはまるので、ここでは重ならないものを中心に取り上げる。リーディング能力を向上させるためのすぐに使えるテクニックも紹介したい。

### 1 語彙力を付けるためには易しめの文章を

いくつも意味の分からない単語が出てくる場合、その単語の意味を前後の関係から予測することは難しい。また、そのような場合、文章全体の内容の理解も不十分になる。そのため、難しい文章を読むことは、言語習得としては推奨できない。文章をより易しいものに差し替える必要がある。比較的易しめの文章を読むことで自然と語彙を豊かにすることができる。ただし、この方法には時間がかかるといった問題点があるため、中学校で扱われる程度の単語であれば、単語帳や単語カードを用いて学ぶことも推奨する。ただし、単語帳や単語カードだけでは、語の使われ方の学習には限界があることから、実際に文章を読む学習方法に並行して取り組みたい。

### 2 精読も必要

どのような内容を読めるようになりたいかという目標を明確にすることが大切である。例えば、英語による指導案を読めるようになりたいという具体的な目的があるときには、最初は辞書を活用しながら、一つ一つ単語の意味を調べながら読み進めていく精読をすることも、ときには必要である。スピードを気にせず、理解することを第一に考えて読み進めることができる。指導案で使用する表現は限られているので、慣れてくればすぐに読むことができるようになる。このような繰り返しで専門的な文章を読み進めて行く上では大切となる。また、ALT との連絡事項においても、限られた話題で、その話題で使われる語彙や表現を理解できれば、ほかのことにも利用できるようになる。

### 3 継続して英語を読むためのアドバイス

#### (1) 興味のあるものを読む

自分の興味のある話題について書かれた教材を選び、少しずつ語彙力を付けるようにするとよい。

#### (2) 些細なことにはこだわらず多読する

リーディングに慣れるにしたがって、意味が分からない語句は飛ばして読み進めていく多読も始めるとよい。これはリーディングのスピードを上げる効果があり、また全体の流れをつかむ能力も鍛えることができる。もちろん、多読を通して、語彙も自然と蓄積されていく。

#### (3) 音読する

内容が理解できたら、音読してみる。音読することで語彙や表現が定着しやすくなり、リーディングの速度も上がっていく。これはリーディングの練習だけでなく、スピーキングの練習にもなる。

指導者としてさらに英語力を向上させていくなれば、話したり、書いたりするアウトプットの量と質が重要である。ライティング能力を向上させるにはどのような知識や技能が必要なのか、日々実践できる方法にはどんなものがあるのかを紹介する。

## 1 基礎的な文法知識が必要である

文章を書くには、基本的な文法知識が必要である。中学校や高等学校で学習した文法を復習しておく。参考書等を読みながら、一つずつ知識を蓄えていくことが必要になる。負担にならないように自分に合ったレベルから学習を始めることが大切である。

## 2 書くことに慣れる

基本的な文法知識がある場合は、英語を書くことに慣れる必要がある。一般的に日記やブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) 等にて、英語で投稿するという学習方法がある。また指導者であれば、指導案を作成するときに、シナリオを書くつもりで、自分自身の発話などをすべて書いてみるとよい。『Hi, friends!』等の指導案は、自治体によっては英語で書かれているものも準備されているので、それをモデルに、語彙や表現を借用しながら書いていくと、負担も少ないだろう。最後に、ALT や専科の先生に添削してもらい、自分の弱点や癖を把握し修正することが望まれる。

## 3 リーディングと関連させて書く

日本語の作文と同様に、文章を書くのが上手な人は、たくさんの本を読んでいる場合が少なくない。リーディングを通じて、語彙や表現が蓄積され、同時に文のスタイルを自分のものとすることができる。自分で読んだものは意識しなくとも頭の中に蓄積され、それが文章を書くときに顕在化する。書こうとしてもなかなか書けない人は、まずは読むことに時間を費やしてみるのもよいかもしれない。また、常に日記や指導案を英語で書いていれば、ほかの人が書いた文章や指導案を読むときに、「こういう風に言うんだ」、「こんな風を書くんだ」という気付きが起きやすくなる。このような気付きが言語習得につながっていく。

## 4 まとまった文章を書く

短い英文を書くことに慣れたら、次はパラグラフ・ライティングに取り組みたい。英文は複数の文から構成されるパラグラフ (段落) が文章の単位となる。パラグラフはその段落で主張したい文 (トピック・センテンス) と、その主張の理由を説明する、あるいは例示する文 (サポーティング・センテンス) から構成されている。日本語の作文と同様に、まとまった文章を書くときには、単純に改行すればよいというわけではなく、パラグラフごとに1つの意味を持たせて、さらに全体として筋道の通った流れのある文章の構成にする必要がある。このような練習を重ねると、文章を書くことへの不安感も減っていく。





## 理論編



本節ではまず、小学校での外国語活動・外国語科を担当する上で、指導者が知っておくとよい指導のエッセンスを述べる。次いで、それらエッセンスに関する第二言語習得理論の主要な考え方を説明する。指導のエッセンスの解説では、新学習指導要領に基づいた新教材の「年間指導計画例〔案〕」(p.32-35, 56-59)と現行の学習指導要領に基づいて作成された『Hi, friends!』等を参考にしながら具体的に論じる。

## 1 第二言語習得理論に基づく指導のエッセンス

### (1) 第二言語学習とは

指導のエッセンスについて述べる前に、第二言語学習の定義を明確にする。第二言語学習とは、広義の「外国語学習」と狭義の「第二言語学習」の両方を含むものに分けられる。両者は、その言語の使用状態により区分される。狭義の第二言語学習とは、目標言語(学習しようとする言語)が日常生活で話されている環境(「第二言語環境」という)で、別の母語を有する者がその言語を学習している状態をいう。例えば、アメリカで英語を母語としない日本の児童生徒が英語を学ぶのがそれに当たる。この場合、「学習」ではなく「習得」という言葉もよく使われる。一方、広義の外国語学習とは、目標言語が外国語として社会生活ではあまり使われていない環境(「外国語環境」という)で学習する状態である。例えば、日本で日本語を母語とする児童生徒が英語を学ぶのがそれに当たる。第二言語習得研究は第二言語環境と外国語環境の両方で行われているが、外国語環境では目標言語への接触量が第二言語環境よりもインプット量が少ないということを理解しておくことは重要である。ただし、近年のグローバル化により、インターネット技術やその関連コンテンツ(外国語のゲームやソーシャル・ネットワーキング・サービス等)の普及、国際バカロレア認定校やインターナショナル・スクール等の普及により、日本国内においても英語の接触量が増えているのも事実であり、以前ほど外国語環境と第二言語環境を区別する必要性もなくなっているということも今後は一層考慮が必要となろう。しかし、新学習指導要領における外国語活動と外国語科の領域名と教科名を考慮し、本節では外国語学習で統一する。

### (2) 音声による活動から始める ― 聞く活動 ―

第一言語の習得(日本人にとっては日本語の習得)と同様に、外国語活動や外国語科の指導も、音声から言葉を学び始めるように授業を構成する必要がある。指導者の話、歌、チャンツ、読み聞かせ等を利用して、じっくり聞かせる活動を優先する。聞く活動を十分に行うことが話す活動へとつながっていく。話すことに自信がない教員は、新教材や『Hi, friends!』等の視聴覚教材を活用するとよいだろう。そうは言っても、視聴覚機器よりも、指導者が話す英語のほうが児童にとって聞き取りやすいことは心に留めておいてほしい。なぜならば、指導者は児童に合わせて話すスピードやピッチを変えたり、語や表現を変えたり、繰り返したり、ジェスチャーを使ったりすることができるからである。このような柔軟な対応こそが、児童が音声を理解することの助けになる。またCDの音声よりも、指導者の声のほうが児童にとって反応しやすいだろう。

指導の初期段階では、指導者が児童に英語の音声を聞かせることで、授業を進めていく。児童は、単語一つ一つを理解しているわけではなく、発話場面、教材等の絵、ジェスチャー等を手がかりとし

ながら、指導者の発話を推測している。また児童は、日本語や英語の単語だけで反応したりすることが多いが、以下のような指導を取り入れることで、彼らの推測が正しいことを伝えたり、日本語で話したことを英語に言い換えたりして英語を聞かせたい。

T: I like orange juice. What do you like?

S: ミルク (/mi//ru//ku/ と 3 音節で発音)

T: Oh, you like milk (/milk/ と 1 音節で発音). I like milk, too.

この例のように、指導者が児童の単語レベルの発話や日本語の発話を取り入れながらやり取りすることで、児童は英語を理解できるようになっていく。また教師の発話を聞く以外にも、聞くことの活動としては、聞いて反応する活動、読み聞かせ、全身反応教授法 (Total Physical Response) なども推奨されている。

聞いて反応する活動とは、おはじきゲーム (おはじきを置いている絵の語が発音されたら、おはじきを取る) やポインティング・ゲーム (指示されたアルファベットや語を探してその文字や絵を指したりする) などである。新教材の3年生「Unit 6 ALPHABET」(『Hi, friends! 1』Lesson 6 に該当) では、指導者がアルファベットを言い、各児童が誌面にあるその文字を指し示す活動が想定されている。1冊の教材を使って、ペアにして、向かい合わせに座らせて、競争させたりするのも効果的である。また、キーワード (ナンバー、アルファベット) が出てきたら消しゴムを取ったりするキーワード (ナンバー、アルファベット) ゲームも有効である。キーワード・ゲームの例として、3年生「Unit 3 How many?」(『Hi, friends! 1』Lesson 3 に該当) では、11～20の数字カードを黒板に張り、児童はペアになって向かい合って座り、キーワードの数字が聞こえたら、消しゴムを取るという活動が想定されている。また、指導者の英語の指示に従い、絵を描いたり色を塗ったりするアクティビティも考えられる。これらのアクティビティには、児童に英語の発話を強要せず、聞くことに集中する機会を与えるということが共通している。

読み聞かせも、リスニングに効果的である。例えば、新教材では3年生に絵本を読み聞かせる活動が想定されている。この絵本は、犬が、森の中で隠れている動物の体の一部を見て、I see something [white / black / big / small / long / scary...]. と行って、何の動物か推測し、Are you a [rabbit / monkey / bear / mouse / snake / tiger...]? と言いながら、様々な動物を次々に見つけていくというストーリーである。このように、絵本は何度も同じパターン (上記以外にも Yes, I am. や I am a... 等) を繰り返すという特徴をもつことから、語や表現を習得しやすい。

全身反応教授法とは、英語を聞いて理解することと、理解したことを動作で表現するというを組み合わせた教授法である。全身反応教授法は、リスニングを中心としており、児童に発話を無理に求めないので、心理的負担も少ない。手続きは次の通りである。

- ① 指導者が指示し、モデルとして自ら動作をして、児童に指示の意味を理解させる。  
(指導者は“Simon says [jump/touch your head/sit down/stand up].”と発話しながら、動作をする)
- ② 指導者が指示し、児童と一緒に動作をさせる。  
(指導者が“Simon says [jump/touch your head/sit down/stand up].”と発話しながら、児童と一緒に動作をする)
- ③ 指導者が指示し、児童だけで動作を行わせる。  
(指導者が“Simon says [jump/touch your head/sit down/stand up].”と指示し、児童だけが動作をする)

- ④ 指示の順や組み合わせに変化をつけて、動作を継続して行わせる。  
(Simon says と言わず、ただ jump とだけ言ったら動作をしないというルールを加えて、③を行う)
- ⑤ 児童が相互に指示を出し、動作し合わせる。  
(④を、児童が指導者役を行って実施したり、グループで行ったりする)

### (3) 音声による活動から始める — 話す活動 —

上述のような聞く活動を通して、児童は英語が理解できるようになってくると、彼らは指導者やほかの児童とやり取りをしたいという気持ちをもつようになる。もちろん、この時点では児童は文を発話できないため、児童が単語を発したら、その単語を取り入れて、指導者が文で発話し直す必要がある(先述の What do you like? のやり取りを参照)。

聞くことから話すことへの移行をスムーズにする鍵が、チャンク(chunk)という考え方である。チャンクとは、指導者の発話やその他のインプット(歌やチャンツなど)で出てきた語句や表現のかたまりである。児童は、細かく分析などせずとも、そのままのかたまり、すなわちチャンクで覚えて、理解し、そのチャンクを使うようになる。3年生「Unit 2 How are you?」(『Hi, friends! 1』Lesson 2)では、How are you? I am [happy / sleepy / hungry / tired]. の表現が出てくるが、指導者は、児童にそれぞれの単語(例えば are や am)の意味や文及び文の構造(肯定文、疑問文、疑問詞、〈主語 + be 動詞 + 補語〉)を説明するわけではない。むしろ、指導者が挨拶をして、ジェスチャーを交えて自身の様子や状態を伝えたり、視聴覚教材でこれらの表現を何度も聞いたりするなかで、児童は How are you? や I am ~. を分析せずともチャンクとして覚えて、理解し、使えるようになっていく。外国語活動や外国語科においても、このチャンクの考え方を生かして話す活動を計画すると効果的である。3年生「Unit 5 What do you like?」(『Hi, friends! 1』Lesson 5)で学習される What ~ do you like? や I like ~. のチャンクを具体例として、紹介する。以下の対話文を参照されたい。

T: What sport do you like?

S1: I like soccer.

T: What food do you like?

S2: I like pizza.

T: What color do you like?

S3: I like blue.

指導者は What ~ do you like? の「~」の部分を変えながら児童に問いかけ、児童は I like ~. の「~」の部分自分の好きなものに置き換えて話す練習である。クラス全体で十分に練習した後に、ペア活動やインタビュー活動へと進んでいく。このような活動を通して、基本的な表現をチャンクとして習得するおかげで、児童は徐々に話すことができるようになる。しかし、このような対話文の繰り返し練習は機械的なドリルになりがちのため、次の(4)で示すように、これらの表現が使われる目的、場面、状況を意識したコミュニケーション活動を計画したい。

### (4) 繰り返し学習を行う

外国語を習得するためには、繰り返しが重要なのは言うまでもない。ただし、機械的な繰り返しだけでは、一時的な効果があるだけで外国語の習得ができていない。児童の生活に密着した、もしくは必然性のある表現をコミュニケーション活動の中で、視覚情報等と合わせた提示を行うことで、繰り返すことにより長期的な効果が期待できる。コミュニケーションの目的、場面、状況を意

識した活動としては、インタビュー、ごっこ遊び、クイズがよく用いられる。例えば、先述の What ~ do you like? I like ~. の対話文を繰り返し練習する場合、友達の好きなものについて、質問したり、質問に答えたりするというインタビューを行うことが考えられる。また、児童が誰か（ほかの教員、児童、動物、有名人等）になりきって教室の前に立ち、ほかの児童が What ~ do you like? という質問をして、教室の前に立った児童が I like ~. と答えたりしながら、その児童がなりきっている人物を当てるような「Who I am? クイズ」も有効である。これらのインタビューやゲームでは目標表現を機械的に繰り返しているのではなく、思考・判断し、表現しているということが重要である。インタビューゲームであれば自分と相手は何が同じで何が異なるかを整理し、「Who am I? クイズ」であれば相手が好きな物を推測しながら、コミュニケーションを行っているのである。これらの活動を通して、目標表現を繰り返すことになる。

また、スパイラルな学習（同じ学習項目を、シラバス全体を通して繰り返し取り上げる学習方法）も効果的である。例えば、I like ~. という表現が、『Hi, friends! 1』の中でどのように繰り返し取り上げられているのかみってみる。Lesson 4 (I like apples. 等)、Lesson 5 (I like birds. 等)、Lesson 8 (I like home economics very much! 等)、Lesson 9 (I like curry very much. 等) で扱われている。『Hi, friends! 2』では、Lesson 3 (I like cooking, too. 等)、Lesson 5 (I like koalas.)、Lesson 7 (I like you. 等)、Lesson 8 (I like animals. 等) で繰り返されている。このように、I like ~. の表現（チャンク）をシラバス全体で徐々に慣れ親しませることで、その表現が定着し、素早く理解したり、話したりすることができるようになる。

さらに、新学習指導要領では、高学年の外国語科では、中学年の外国語活動で扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し取り扱うことが求められている。具体例として、日課を表す表現について、新教材を参考にしたい。日課を表す表現は、4年生「Unit 9 This is my day.」と5年生「Unit 4 What time do you get up?」で導入されている。4年生の児童の発話例は、I wake up (at 6:00). I eat breakfast (at 7:00). I go to school. I go home. I take a bath. と、基本的な語彙や表現が使われている。一方、5年生の児童の発話例は I take out the garbage. I wash the dishes. I walk my dog. I clean the room. I do my homework. であり、4年生のときよりも、語彙や表現が難しくなっている。このように、外国語活動で扱った語彙や表現を外国語科で繰り返し扱う場合は、平易なものから難しいものへと発展していく。なお、外国語科では、外国語活動とは異なるコミュニケーション場面で繰り返すなどの工夫も必要である。上記の例でいえば、4年生では世界の子供たちの生活で導入された日課表現が、5年生では別の場面（児童の身近な暮らしに関わる場面）で繰り返されている。このように、繰り返しを工夫することによって、外国語が効果的に学習されていく。

### (5) 読む活動と書く活動は音声十分に慣れ親しんだ後に

新学習指導要領では、高学年から発達の段階に応じて、段階的に「読むこと」と「書くこと」を学習内容に加えていくことが求められている。2年間で合計70時間の外国語活動を行ったからといって、高学年の児童に十分な英語の音声蓄えられているわけではない。英語の音声に慣れ親しんでいないのにも関わらず、発音と綴りとの関係の指導をすることは難しい。

新教材では、5年生の Unit 1 から Unit 7 まで「活字体の文字」や「その音」が分かることが、単元目標として掲げられている。また、『Hi, friends! Plus』では、「小文字探し」「Animal Paradise」や「What Color? Quiz」等を活用して、児童が英語の文字には「名称」(/ei/, /bi:/...)と「音」(/æ/,

/b/...) とがあることに気付かせる活動がその例として挙げられる。次に、(アルファベット) ジングルを毎回の授業で扱い、繰り返し言わせることで、児童の文字の音の認識を高められる。ワークシートも準備されているので、ジングルを口ずさんで練習させることも可能である。十分に音声に慣れ親しんだ後で、文字をなぞる、聞こえてきた文字を○で囲んだり、✓で印をつけたりする、一文字ずつ書くなどの練習を行う。また、自分の名前を書いて名刺を作ったり、インタビューをした相手の友達の名前を書いたり、様々なゲーム(ポインティング・ゲーム、キーワード・ゲーム、ミッシング・ゲーム、ゴーフイッシュ・ゲーム等)を行ったりして、読むことに慣れ親しませたい。実際的な活動以外でも、児童の読みへの興味・関心を高める方法として、文字や身の回りの単語を掲示する、指導者がよく使う表現を一覧にして掲示する、曜日や月の名前が書かれたカレンダーを掲示する等の工夫ができるであろう。

文字の後は、語や表現レベルへと移行していくことになる。基本的な活動に文字練習で行った語や表現を組み入れることができる。例えば、単語であれば、メモリー・ゲームが比較的容易に取り組める。絵カードと単語カードを用意し、裏返した状態で、絵と単語カードが一致したら、両カードを取り、不一致であれば、両カードを裏返すというような、いわゆる神経衰弱である。この活動は、スペルの定着に効果的である。6年生「Unit 3 He is famous. She is great.」では、表現や文であれば、fish / eat / Iのように音声で十分に慣れ親しんだ単語をバラバラに並べて、それをペアやグループで協力して並び替えさせるような活動がある。また、〈主語+動詞+目的語〉の文(I eat fish. / I fish eat.)を読ませて、どちらが正しい文かを判断させるようなものも考えられるのではないだろうか。このような活動を行うことによって、表現や文レベルで読むことに慣れ親しませられる。

書く活動については、日本語と英語の文字体系が大きく異なるので、なぞったり、書き写したりすることから、徐々に慣れさせていくとよい。ただし、与えられた文字、単語、表現だけをなぞったり、書き写したりするだけでは児童の興味・関心を持続させていくことは難しいので工夫が必要である。例えば、5年生「Unit 6 I want to go to Italy.」(『Hi, friends! 2』Unit 5)であれば、自分の紹介する国(Canada)、場所(Niagara Falls)、食べ物(Poutine)などの単語をインターネットや本などで調べて書き写す活動が考えられる。さらに、指導者などが書いた例文(I want to go to Italy. I want to see soccer games. I can eat pizza.)を参考に、下線部を自分の行きたい国やその理由に替えて、文全体を書く活動なども考えられる。

## (6) 外国語学習には動機付けが重要

第一言語習得は発達の一部(ほぼ例外なく誰でも母語を習得できる)であるが、特に外国語を教室で学ぶ場合は、目標言語を学習する動機付けが必要である。動機付けを十分に高めることにより、学習の質が向上することは自明といえよう。一般的に、児童は外国語学習そのものに対する意欲や外国の文化や人々に対する関心は高い。しかし、長期的には外国語を学ぶ意欲が下がる。文部科学省(平成26年)の調査結果でも、「英語が好き」と答えたのは、小学校5、6年生の70.9%、中学校1年生の61.6%、中学校2年生の50.3%で、毎年10%ずつ低下してきていることが分かる。児童は、発達に伴い自分自身と他者を比較するようになり、自分が外国語を学ぶのに向いているか向いていないかを判断できるようになる。そのために他者と自分の英語の力を比べることで、もともと持っていた動機付けが失われていくのではないかと考えられる。

外国語活動や外国語科における児童の動機付けの源は、授業で指導者と経験する活動である。外国

語活動・外国語科でも、児童の活動に対する動機付けを積極的に高めていく必要がある。体験すること・できることの楽しさ、難しいことに挑戦することの楽しさ等、あらかじめ児童の実態を適切に調査し、その児童に合った動機付けの要因を明らかにし、それを高めていくような活動に取り組んでいく必要がある。第二言語習得研究に基づくと、以下の3段階を意識しながら児童を動機付けていくとよいだろう。

#### 行動前段階

- 楽しく、互いに学び合おうとする雰囲気をつくり出そうとする
- 教師が英語力を磨き、児童にとってよいモデルになろうとする など

#### 行動段階

- 児童の興味・関心に合わせて活動をデザインしようとする
- 児童の自尊感情を大切に、自信を高めようとする など

#### 行動後段階

- 児童の努力をほめる
- (高学年の) 児童が自己評価する機会をつくる など

以上をまとめると、小学校での外国語活動や外国語科を構築する際に、常に意識すべき知見としては、次のようなものが挙げられよう。

- 音声中心に聞くことから始めて、話すことへ進めていく
- よりよいコミュニケーション活動のために、聞く時間を確保する
- 音声に十分に慣れ親しんだ後に、読んだり、書いたりする活動を行う
- 単なる機械的な繰り返しではなく、意味・必然性のある表現を、様々な活動を通して繰り返し触れさせる
- 児童の実態を調査し、児童の意欲を高めるための方策を考える

次に、これまで述べてきた指導のエッセンスに最も影響を与えてきた第二言語習得理論のうち、主要な3つの見解について述べる。

## 2 第二言語習得論の主要な見解

### (1) 行動主義的考え方

外国語学習に対する行動主義的考え方では、「刺激 → 反応 → 強化 (フィードバック)」による習慣形成が言語学習の重要なプロセスであるとする。児童は指導者等から受け取る音声 (インプット) を繰り返し模倣 (アウトプット) したり、類推して話したり (アウトプット) する。正しければ訂正 (フィードバック) を受けないので児童はそれらを何度も使うようになり、間違っていれば指導者などから訂正される。この繰り返しによって、習慣が形成 (外国語が習得) ・自動化されると考えられる。この考え方に立てば、指導者は正しいモデルを提供すること、何度も繰り返すこと、間違いを避けること、間違っていれば訂正することが重視される。近年では、習慣形成という行動主義の考え方は、情報处理的な考え方や社会文化的な考え方に引き継がれている。

### (2) 情報处理的考え方

学習に対する情報处理的考え方は、児童が、教師やほかの児童とやり取りしながら、何らかの情報

を得て、自分の知識を使いながら、理解したり、記憶したりして、情報を発信するという考え方である。この考え方を外国語学習に当てはめると、やり取り（インタラクション）に参加すると、まず、児童は自身の発話（アウトプット）の誤りに対して指導者から訂正（フィードバック）を受ける。訂正されると、正しい言い方（インプット）を学ぶだけではなく、学習者は誤りに気づき、どのように直せばいいのか仮説を立てる。その仮説が正しいかどうかを、相手に話す（アウトプット）ことで、検証する。また、やり取り中に訂正がすぐに与えられず、数日後に指導者の発話を聞いたり、読んだり、聞いたりするインプットの中で、仮説を検証する機会もある。このようなやり取りを繰り返すことで児童は外国語を学習していく。

情報处理的考え方のもう1つの重要な点は、外国語の知識や技能の習得は、何かについて知る段階、知識を実際に使う段階、知識が流暢に使える段階の3段階を経るということである。ここでは、過去の表現の習得の例で説明する（6年生「Unit 7 My Best Memory」）。まず、児童は過去の表現（went, saw, enjoyed, was 等）があることを学習する必要がある。ここでは、教師やALTの発話（We went to the sea. We saw a starfish. It was fun. / We enjoyed the sports festival. We enjoyed the *mukade-kyousou*. It was exciting. 等）を聞くことで自然に気付いて学習することもあれば、「過去を表すときには go じゃなくて went」、「eat じゃなくて ate」、「see じゃなくて saw」、「enjoy じゃなくて enjoyed」、「is じゃなくて was」等、簡潔に教えられる場合もある（もしくはその両方）。次に、コミュニケーション活動の中で過去の表現の知識を使って練習する段階である。例えば、指導者の We went to the sea. We saw a starfish. It was fun. 等の発話を聞いて、教師やALTが話している思い出の学校行事について推測するような活動である。また、My best memory is the sports festival. I enjoyed the *mukade-kyousou*. It was exciting. 等と児童が言いながら思い出の学校行事について話したり、聞いたりする練習である。さらに、様々な場面で練習を積むことにより、英語の過去の表現の知識を徐々に流暢に（ほとんど意識しなくても）使うことができるようになっていく。

このように情報处理的考え方に立てば、外国語活動や外国語科では、児童が外国語を用いてやり取りするような活動を多く設定することが重要となる。さらに、コミュニケーション活動の中で、指導者は、児童の反応を見ながら、分かりやすく言い直したり、児童に誤りを言い直させたりすることで、児童の気づき、理解、仮説検証、自動化、思考等の認知プロセスを促進することが大切である。

### (3) 社会文化的考え方

学習に対する社会文化的考え方では、児童が言語（第一言語や外国語）を介した協働作業を経ながら、外国語を学習していくという点が強調されている。中でも、言語を通じたやり取り（インタラクション）と学習における児童と指導者との関係がもつ役割を重要視している。ヴィゴツキー（Lev Vygotsky）は発達最近接領域（Zone of proximal development）という概念を提唱し、「子供は自分よりも知識があり、豊富なスキルをもっている人のサポートを受けることにより、一人ではできないことができる」と主張している。つまり、児童が指導者とのやり取りやほかの児童とのペアワーク、グループワークの中で、自分一人では成し遂げることができなかったパフォーマンスを見せるということに着目している。この他者との協働作業で可能になるパフォーマンスこそが、近い将来に児童が一人のできるようになることであり、それを見極めるのが教師の役割である。

社会文化的考え方では、独り言や言葉遊びも、外国語学習において重要なプロセスであると考えられている。例えば、外国語活動や外国語科でよく用いられるペアワークを観察していると、児童が、

相手と言葉を用いてやり取りするだけでなく、ぶつぶつと自分自身に語りかけたり（「I baseball play. じゃなくて I play baseball. の順番だった」）、言葉遊びをしたり（「/ba-na-na/ じゃなくて /bənæɪnə/, /bənæɪnə/, /bənæɪnə/」）しているのをよく見かける。このようないわゆる独り言や言葉遊びを行うことで、身に付いていない語や表現をより確かなものに行っていると考えられている。やがて、独り言を言わなくても、ほかの児童とやり取りを行えるようになっていく。

社会文化的考え方に基づくと、外国語活動や外国語科では、指導者と児童のやり取りはもちろんのこと、児童の言葉遊びを促すような活動、児童同士のやり取り（ペアワーク、グループワーク）を大事にすることが求められる。さらに、指導者には、児童とのやり取り（インタラクション）の中で、近い将来児童一人でできるようになるための支援（フィードバックなど）を行うことが求められる。



本節では、外国語活動や外国語科の指導のエッセンスを、児童の主体的・対話的で深い学びを実現させる観点から、新教材、『Hi, friends!』、『Hi, friends! Plus』、絵本等の具体的な教材を取り上げながら概説した。それらの指導法の根拠となる第二言語習得理論の3つの考え方も紹介した。どの考え方が正しいということではなく、それぞれ長所を生かしながら、適宜指導に取り入れていくとよい。

#### 引用文献

文部科学省（2015）『平成26年度 小学校外国語活動実施状況調査の結果について』

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/09/24/1362168\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/09/24/1362168_01.pdf)

「どのように学ぶか」という学びの質が重視され、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の点からの授業改善が求められている。「主体的・対話的で深い学び」によって、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにするためである。ここでは、外国語教育における主体的・対話的で深い学びを解説する。(具体例は、p.54, p.88)

### 1 「主体的・対話的で深い学び」とは

#### (1) 主体的な学び

中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』では、主体的な学びの視点は「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか」と説明されている。外国語教育における学びとは、外国語を学ぶことや外国語でコミュニケーションすることである。したがって、外国語教育における「主体的な学び」とは、①外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心をもつこと、②生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすることを意識すること、③コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組むこと、④自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげることであると言える。小学校では、やってみたいという気持ちをもって活動に取り組んだり、楽しみながら活動をしたり、自分の本当の気持ちや考えを伝え合いたいという思いをもって活動をしている時、主体的に学んでいると言える。

#### (2) 対話的な学び

答申では、対話的な学びの視点は「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているか」と説明されている。外国語教育の目標が外国語によるコミュニケーション能力の素地や基礎を育成することであることを考えると、他者と対話を図ることやその大切さを指導することは外国語教育にとって核となるものである。外国語教育における対話的な学びとは、表面的なやり取りのことではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自らの考えを広げたり深めたりすることである。小学校では、聞いたり話したりすることが中心となるが、書かれたもの(絵本など)を読んで社会や世界について知ったり、他者の考え方を学んだり、自らの考えを深めたりすることも、対話的な学びであると考えられていることに留意する必要がある。

#### (3) 深い学び

答申では、深い学びの視点は、各教科等で身に付けた資質・能力によって支えられた、物事を捉える視点や考える方法である「見方・考え方」を活用し、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に構想して意味や価値を創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかであると説明されている。外国語教育における、深い学びとは、①コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて思考力・判断力・表現力等を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識がさらに深まり、それらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて実際のコ

コミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすることや、②深い理解と確実な技能に支えられて、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすることである。例えば、6年生「Unit 5 My Summer Vacation」では、ゲーム等を通して感想を表す形容詞 (nice, exciting, delicious 等) を練習し、知識や技能を身に付ける。その後、夏休みの思い出について伝え合う活動を行う。伝える内容を整理して、I went to the sea. I ate fresh fish. It was delicious. という表現を選んで伝え合ったとする。この時、delicious はただ単に「おいしい」という意味ではなく、伝える内容を整理する中で、海で食べた新鮮な魚の「あの味」の記憶とともに delicious の語の意味が学び直されることになる。また、自分の伝えたい内容のために語句や表現を選択する中で、nice でも伝わるかもしれないが、「あのおいしさ」は delicious の方が適切だというような理解の深まりも起こるだろう。このように、目的・場面・状況に応じてコミュニケーションを行う言語活動の中で知識・技能がより深く学ばれていく。

## 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりと授業研究

外国語教育における学習が、子供たち一人一人の資質・能力の育成や生涯にわたる学びにつながる意味のある学びとなるように、「主体的・対話的で深い学び」の視点から不断の授業改善をしていくことが求められている。また、学校全体で教員同士が協働して「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るために授業研究を行うことも大切である。

「主体的な学び」の点からは、単元の中で、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、児童が興味関心を持つことのできる題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりして学習への動機付けを図ることが重要である。「対話的な学び」の視点からは、単元の中で、他者と情報や考えを伝え合う活動を設け、他者を尊重しながら対話を図る活動を設定したり、他者の考えに触れて自らの考えを振り返ったり深めたりするよう促すことが重要である。また、「深い学び」の視点からは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱が総合的に育成されているかに留意しながら、単元を計画することが重要である。このため、授業では、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした言語活動を設定し、児童にとって必然性のある活動を効果的に設計することが大切である。これらの視点による授業づくり及び授業改善をする際には、適宜 ICT も取り入れるとよい。

外国語教育において、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、という学習過程が示されている。この学習過程を単元や授業の中の流れとして位置付けることで、「主体的・対話的で深い学び」を推進することができる。



学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的 (アクティブ) に学び続けるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要である。外国語教育における学習過程に従って、資質・能力を総合的に育成していくようにする。

新しい学習指導要領では、外国語活動及び外国語科のどちらにおいても学級担任の教師または外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業の全体的なマネジメントをすることになっている。また、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材等の協力を得るなど、指導体制の充実を図ることとされている。これは、現行学習指導要領（外国語活動編）で述べられていることと同じである。教科になっても、「学級担任の教師、または外国語を担当する教師」が中心になって授業を進めていくことに変わりはない。ここでは、指導者としての学級担任、外国語を担当する教師（専科教員）及びネイティブ・スピーカーや地域人材等の役割について述べる。

## 1 学級担任の役割

### (1) クラスの実態に合わせた活動計画の作成と授業展開を考える

小学校の学級担任は、1日中クラスの児童と接している。そのため、児童の学習特性を熟知している。児童の様子や学習内容に合わせて、個に応じた指導も可能である。クラスの実態に合わせて活動計画を作成し、児童に合わせて授業の展開を考えるのは学級担任の役割である。

### (2) 他教科等との連携を考える

学級担任はすべての教科を担当しているため、クロスカリキュラム的なアプローチに長けている。新学習指導要領においても、言語活動で扱う題材に関しては、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習した内容と関連付けるなどの工夫をすることが求められる。学級担任は、すべての教科を担当するため、教材研究は大変だが、その分、絶えず他教科等との連携を意識することができ、それを踏まえて指導計画を作成できることは学級担任の強みでもある。

### (3) 児童へ安心感を与える

外国語は児童にとっては未知の言語である。絶えず不安がつきまとう。特に発表活動等においては、なおさら不安は大きくなるだろう。たとえ自信がなくても、児童が勇気をもってチャレンジするためには、学級担任のサポートが欠かせない。「間違えても大丈夫」という学級の雰囲気をつくることや、児童へ安心感を与え、励ますことは学級担任の役割である。

### (4) コミュニケーションのモデルを示す

児童にとって存在感の大きい学級担任が、「英語は苦手だから」と活動に参加せず、英語を使うことに消極的な態度であれば、児童から積極的に英語を話そうとする意欲を引き出すことは難しい。様々な場面で児童は学級担任の影響を強く受ける。学級担任が、専科教員やALTとも堂々と英語を使って話している姿を見せることが、児童にとって、よいコミュニケーションのモデルとなる。

### (5) 主に態度面を評価する

外国語活動においても外国語科においても、評価をすることには変わりがない。学級担任の役割としては主に態度面の評価を中心となって行っていただきたい。

## 2 専科教員やALT、英語が堪能な地域人材等の役割

### (1) 外国語指導の点から、活動計画と授業展開を考える

前述したように、学級担任は児童の学習特性や学級の実態、さらに他教科等との連携を考えながら活動計画や授業展開を考えることに長けている一方で、外国語の指導という点では不安もある。そこで、

専科教員や ALT、英語に堪能な地域人材等の役割としては、文構造や英語の表現、音声や語彙、さらに、外国語教授法の面から、活動計画や授業展開を考える役割が求められる。

## (2) 英語のインプットを与える

専科教員や ALT、英語に堪能な地域人材等は、英語に関する知識や技能に長けている。児童期には良質で大量のインプットを与えることが言語習得の観点からは重要である。インプットなくしてアウトプットはあり得ない。したがって、専科教員や ALT、地域人材等には、授業の様々な場面で質と量の両面から、十分なインプットの提供者としての役割がある。

## (3) 適切なフィードバックを与える

学級担任が児童に安心感を与えたり、励ましを与える役割があるとすれば、専科教員や ALT、地域人材等には英語に関する知識や技能を生かして、児童の発話に対して適切なフィードバックを与える役割がある。例えば、“I like dog.”と発話した児童に対して、“Oh, you like dogs.”などのように、適切にフィードバックを与える必要がある。フィードバックがなければ、気付きも起こらない。フィードバックには高い専門性が求められる。特に教科となる高学年においては、フィードバックの重要性が高まり、その面での専科教員等や ALT、地域人材等の役割も大きくなる。

## (4) 主に「知識・技能」、「思考・判断・表現」の面を評価する

前述したように、学級担任は主に態度面の評価を担うことになる。特に教科となった外国語科においては、「知識・技能」、「思考・判断・表現」等の面の評価も重要となってくる。そこで、専科教員や ALT、地域人材等は主に「知識・技能」、「思考・判断・表現」の面からの評価を担うことになる。評価は主に観察評価や、作品評価、パフォーマンス評価等を取り入れることになる。

## (5) 異文化理解の点からの指導

特に ALT が外国人の場合は、異文化理解の観点から、ALT の国の文化等を紹介する役割が求められる。また、外国生活の経験がある地域人材にも同じようなことが求められる。児童にとって身近なテーマを選び、写真や実物等を使い、児童に分かりやすく理解させることが大切となる。



学級担任は児童について熟知しているが、英語の知識や運用力という面では不安がある場合が多い。一方、ALT や地域人材等は、英語の知識や運用力には長けているが、児童については、十分に理解できていないことが多い。チーム・ティーチングが可能な場合は、両者が互いの弱点を補い、かつ長所を最大限に生かすことによって外国語活動及び外国語科の目標を達成することが可能となる。単独で指導する場合は、両者の役割を兼ね備えることが必須となる。

今後は学級担任が指導力を高めて専科教員となることも考えられる。また、中学校や高校の教員が専科教員として指導することも想定される。いずれの場合も学級担任との連携は必須となる。外国語活動及び外国語科のどちらにおいても、外国語教育を通して、他者と関わることやコミュニケーションの体験をさせることが大切となる。学級の中にはコミュニケーションを行うことに課題がある児童等、様々な特性をもつ児童が存在する。児童の実態を無視してコミュニケーション重視の授業が展開できるはずがない。どのような指導体制であっても、個々の児童の特性を十分に把握している学級担任との連携は欠かせないものである。

学習指導要領の改訂によって、中学年で外国語活動が導入され、高学年で外国語科が実施される。外国語活動ではコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することとされており、外国語科ではコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとされている。ここでは、改訂前の小中連携の成果と課題を踏まえ、外国語活動と外国語科の連携の在り方を解説する。

## 1 改訂前の課題

現行の学習指導要領では、小中連携といえば、学校種間の連携と「活動型」と「教科型」の連携の両面があった。小学校において、新学習指導要領の外国語活動（「活動型」）と外国語科（「教科型」）の連携を考える上で、今までの小中連携の課題を確認することが重要である。

外国語活動を通して、児童の学習意欲の高まりや中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった変容などの学習成果が認められるものの、それまでの学習内容を中学校外国語科に発展的に生かすことができているといった課題が指摘されている。特に、①音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない、②国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある、③高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められることなどが課題として指摘されている。

②は留意が必要である。発音と綴りとを関連付けて指導することは中学校段階の学習内容であり、発音と綴りの関係の規則を明示的に指導することは小学校では適切でない。また、文構造については、「日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること」とされ、文法の用語や用法の指導に偏らないようにするとされている。小学校では、②の課題については英語の気付き（日本語と英語の音声や語順違いなどの気付き）を促進するように工夫することが重要であろう。

③の課題は、外国語活動の目標は「慣れ親しみ」であり、体系的な学習を通して「できるようになる」ことではないため、抽象思考の高まる高学年児童が成就感をもてないなどが課題であることを指している。この課題を受けて、新学習指導要領では、高学年では「慣れ親しみ」ではなく、習得が求められる教科となったことを理解する必要がある。

## 2 指導目標の連携

新学習指導要領では、小・中・高で一貫した目標の実現を図るため、また、「外国語を使って何ができるようになるのか」を明確にするために、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の領域別の目標が設定されている。児童の発達の段階を捉えて指導に生かすために、領域別の目標を比較し、何を身に付けさせるのかを理解することが重要である。特に、「読むこと」と「書くこと」は外国語科で導入される領域であるが、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」は外国語活動と外国語科で扱う領域なので、それぞれ目標を確認しておくことが重要である。

また、外国語活動と外国語科の連携を考える際に、「慣れ親しみ」と「技能の習得」の違いを意識する必要がある。「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」において、外国語活動で十分慣れ親しんでから、外国語科で基礎的な技能を身に付けるようにすることが求められている。「慣れ親しみ」は、単元に設定されている様々な活動の中で、その単元で使用するように設定されている語彙や表現

を聞いたり話したりしている児童の行動として捉えることができる。一方、その語彙や表現を異なる場面でも使用できる状態を、技能を身に付けている姿、すなわち習得している状態と考えることができる。

この慣れ親しみと技能の習得の点から指導目標を見てみよう。例えば、「話すこと〔発表〕」の目標として、外国語活動において、「ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする」(下線筆者)が挙げられている。一方、外国語科においては「ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする」(下線筆者)である。このように目標の文末は、外国語活動では「～話すようにする」と表現されるが、外国語科では「～話すことができるようにする」とされている。これは、外国語活動では、慣れ親しんでいる状態にするように指導することが求められているのに対して、外国語科においてはその技能が別の場面でも活用できるようにすることが求められているという「活動型」と「教科型」の違いによるものである。

### 3 学習意欲や積極性の維持のために

外国語活動と外国語科の連携において、学習意欲や積極性の維持を図ることが求められている。慣れ親しみによって得られる英語使用の喜びを、外国語科でも感じられるようにすることが重要である。そのために、児童の興味や関心のある話題を取り上げたり、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にして見通しをもたせながら学習に取り組ませたりすることが重要である。実際に英語を聞いたり話したりして言語活動を十分に経験する中で、英語を使うことの喜びを得られたり、達成感を持つことができる。外国語科においては、教科としての定着を意識するあまり、練習のための活動に偏ることのないように、英語を実際に用いて考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことが重要である。また、その際には、外国語活動で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を、外国語科においても繰り返し用いることのできる言語活動を設定することが必要である。

### 4 音声から文字へつなげるために

外国語活動は音声を中心に扱い、外国語科においては音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりする。音声から文字へとつなげるように、どのような語句や表現に慣れ親しんだのか、中学年の担当教員と高学年の担当教員で連携を図ることが重要である。

また、外国語活動の「聞くこと」では「ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする」という目標が示され、文字の名称の発音を聞き、文字を特定することを行うこととされている。この慣れ親しみは、外国語科においては、「読むこと」の「ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」という指導目標や「書くこと」の「ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」という指導目標につながっている。外国語活動では、外国語科につながる学習を行っていることを意識することが重要である。



改訂前の小中連携の成果と課題を踏まえ、外国語活動と外国語科の連携を図ることが重要である。その際、慣れ親しみと技能の習得の点から指導目標を比較・検討し、それぞれどのように指導するかを明確にするべきである。また、学習状況に関する担当教員間の情報交換も必要である。

